

2024年度 実務経験のある教員等による授業科目一覧<リハビリテーション学科作業療法学専攻>

科目名	単位数	実務経験を活かした当該授業科目への展開
栄養学 (リ)	1	リハビリに取り組むアスリートに対する栄養教育経験のある管理栄養士である教員が、その実務経験を活かして栄養学についての授業を行う。
障害者福祉論 (リ)	1	障害福祉サービス事業を展開している複数の社会福祉法人・特定非営利活動法人の研修講師、オブザーバー、コンサルタントの経験および行政機関から依頼された障害者虐待防止に関する研修講師の経験があり、その実務経験をいかして障害者福祉の理念や法制度について授業を行う。
整形外科学	1	担当者は医療施設において整形外科医として実務経験があり、またスポーツ整形外科、膝関節外科、再生医療を専門としており、その経験を活かして本授業を行う。
小児科学	1	小児科専門医として豊富な臨床経験を持つ
医療安全・感染症学	1	医療機関において内科医師として診療に従事しており、その経験を活かして実践的な医療安全学や感染症学についての授業を行う。
リハビリテーション医学	1	医療機関におけるリハビリテーションの実務経験を有する教員が、臨床場面での知識の活用や実用的な訓練法を含めて講義する。
画像診断学	1	医療機関において医師として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして画像診断学についての授業を行う。
理学療法学	1	病院等において理学療法士として従事した経験がある。その経験を生かした理学療法に関する授業を行う。
医療経済学	1	担当者は医療施設・福祉施設等において作業療法士および部門管理者として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして本授業を行う。
運動・応用生理学 ①	1	臨床医または理学療法士として豊富な臨床経験のある教員により授業を行う。
運動・応用生理学 ②	1	臨床医または理学療法士として豊富な臨床経験のある教員により授業を行う。
地域・医療連携論	1	病院や施設において理学療法士・作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を生かして授業を行う。
予防学 (予防の基礎: OT)	1	介護保険領域、保健領域で作業療法士として実務に従事した経験あり、その実務を活かして介護予防等の作業療法実践についての授業を行う。
作業療法管理学Ⅰ	1	担当者は病院・福祉施設等において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして本授業を行う。
作業療法管理学Ⅱ	1	担当者は医療施設・福祉施設等で作業療法士として勤務した経験があり、その実務経験を活かして授業を行う。
基礎ゼミナールⅢ (OT)	2	担当教員は医療機関や福祉施設等で作業療法士として従事した経験を持つ
基礎ゼミナールⅣ (OT)	2	担当教員は身体障害領域、精神科領域において、作業療法士としての臨床経験があり、その臨床経験を活かし、医療従事者としてのコミュニケーション技術や体験実習で求められる技術を指導していく。
保健体育 (B)	2	主として小学校において、教諭及び管理職として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、学校現場や児童・生徒の実態や様子も踏まえながら、より具体的な授業を行う。
体育実技 (A)	1	高等専門学校教員、高校・大学トレーナー
体育実技 (B)	1	高等専門学校教員、高校・大学トレーナー
体育実技 (C)	1	高等専門学校教員、高校・大学トレーナー
医療キャリアデザイン ② (OT)	1	担当者は医療施設・福祉施設等において作業療法等として、またキャリアサポートの実務経験がある。その実務経験を活かして本授業を行う。
臨床心理学 (リ)	2	職業リハビリテーション領域での30年間の実務経験を踏まえて現状の限界性と将来への希望を伝えていきます
社会福祉概論 (B)	2	障害者施設や老人福祉施設において組織運営管理者として従事した経験があり、その経験を活かして、具体的な場面を紹介しながら授業をすすめる。
基礎科学概論	2	病院において言語聴覚士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、保健・医療・福祉に必要な物理学の基礎知識についての授業を行う。
運動学 (OT)	1	担当教員はいずれも医療機関において身体機能分野の作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして運動学について授業を行う。
内科学・生活習慣病	2	医療機関において医師として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして内科学と生活習慣病についての授業を行う。
神経内科学	1	医療機関において医師として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして神経内科学についての授業を行う。
高次脳機能障害学演習 (PT・OT)	1	作業療法士免許と臨床の実務経験を有する教員、言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員が、学修内容 (知識や技能) の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
作業遂行学Ⅰ (基礎) ①	1	身体障害領域総合病院、身体障害者リハビリテーションセンター、介護保険領域等において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、作業療法プロセスや作業療法の実践方法を具体的に網羅した授業を行う。
作業遂行学Ⅰ (基礎) ②	1	身体障害領域総合病院、身体障害者リハビリテーションセンター、介護保険領域等において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、作業療法プロセスや作業療法の実践方法を具体的に網羅した授業を行う。

リハビリテーション概論	2	病院、施設において理学療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を生かしてリハビリテーション概論についての授業を行う。
薬理学（リ）	2	病院薬剤師、薬品会社の管理薬剤師の経験あり
基礎解剖学演習（PT・OT）③	2	病院において理学療法士として従事した経験があり、その実務経験を活かして解剖学に関する授業を行う。
病理学	1	この科目の教員は全て実務経験者である
臨床作業運動学	1	医療機関において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして本授業を行う。
作業療法概論①	1	医療機関・福祉施設等で作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして本授業を行う。
作業療法概論②	1	医療機関・福祉施設等で作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして本授業を行う。
基礎作業学Ⅱ（治療的応用）	1	担当教員は医療施設で作業療法士としての実務経験があり、その実務経験を生かして本授業を行う。
研究演習	1	担当教員は作業療法士として臨床研究に取り組んだ経験があり、本講義ではそれらの研究を紹介しながら理解を深めていく。
作業療法評価学 総論	1	医療機関及び療育施設において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして対象者を理解するために必要な評価の意味や評価手法についての授業を行う。
身体機能作業療法評価学Ⅱ	1	担当教員は、急性期や回復期病院での実務経験があり、この経験をいかして実際の対象者に対して計画立案から治療までのプロセスを指導する。
精神機能作業療法評価学	1	精神科病院において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして精神障害者に対する作業療法評価につ
精神機能作業療法治療学	1	精神科病院において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、疾患別の特徴やその回復段階の特徴についての授業を行う。
身体機能作業療法学総論	1	医療機関において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして本授業を行う。
認知機能作業療法学	1	担当者は医療施設・福祉施設等で作業療法士として実務経験があり、その実務経験を活かして本授業を行う。
高齢期作業療法学	1	高齢者福祉施設、介護保険領域で作業療法士として実務に従事した経験あり、その実務を活かして高齢期の特性、作業療法評価及び実践についての授業を行う。
発達過程作業療法学	1	療育施設や特別支援教育の領域において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、具体的事例を含めながら授業を行う。
精神機能作業療法総合演習Ⅰ（評価）	1	精神障害領域医療施設において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして精神障害者のニーズに即した支援や地域での生きづらさについて考える授業を行う。
精神機能作業療法総合演習Ⅱ（治療）	1	精神障害領域医療施設において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして精神障害者のニーズに即した支援や地域での生きづらさについて考える授業を行う。
身体機能作業療法学各論Ⅰ（脳血管・運動器疾患）	1	担当教員はともに病院、訪問リハビリテーションなどで作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を生かして、身体機能作業療法学の実践、治療原理について授業を行う。
身体機能作業療法学各論Ⅱ（内部障害・がん他）	1	担当教員は、急性期や回復期病棟での実務経験があり、この経験を生かして実際の対象者に対して計画立案から治療までのプロセスを指導する。
発達過程作業療法治療学	1	療育施設や特別支援教育の領域において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、具体的事例を含めながら授業を行う。
環境と作業療法	1	大学附属診療所、障害者支援施設、身体障害者リハビリテーションセンター等において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし、物的環境に対する身体機能の変化について教授する。
地域作業療法学	2	作業療法士として障害者就労支援施設において業務に従事した経験があり、その実務経験を生かして地域における支援の実践についての授業を行う。
高齢期地域生活支援論	1	介護保険領域、保健領域で作業療法士として実務に従事した経験あり、その実務を活かして地域包括ケアシステム等地域で高齢者を支援するサービスについて及び作業療法実践についての授業を行う。
生活環境整備論	1	大学附属診療所、障害者支援施設、身体障害者リハビリテーションセンター等において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かし、福祉用具と住宅改修の視点や生活行為向上マネジメントについて教授する。
卒業研究（OT）	2	各教員が医療機関や福祉施設等において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして学生が設定した研究テーマについての指導を行う。
職業リハビリテーション演習	1	障害者支援就労支援施設、リハビリテーションセンター、当事者・家族会等において、小児～高齢者の職業リハビリテーション支援に従事した経験があり、その実務経験を活かし職業リハビリテーションについて教授する。
領域別演習（基礎・身体・精神・発達・地域）	1	各教員が医療機関や福祉施設等において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして学生が設定した研究テーマについての指導を行う。

身体機能作業療法総合演習Ⅰ（基礎）	1	担当教員は全員、身体機能分野の施設で作業療法士として従事した経験があり、また現在も従事している。その経験を活かして実際の対象者とのかかわりで必要な態度や面接、検査測定の方法について指導する。
身体機能作業療法総合演習Ⅱ（評価）	1	担当教員は、急性期や回復期病院での実務経験があり、この経験を活かして実際の対象者に対して計画計画の立案から治療までのプロセスを指導する。
身体機能作業療法総合演習Ⅲ（治療）	1	担当教員は、急性期や回復期病院での実務経験があり、この経験をいかして実際の対象者に対して計画計画の立案から治療までのプロセスを指導する。
作業遂行学Ⅱ（評価）	1	身体障害領域総合病院、身体障害者リハビリテーションセンター、介護保険領域等において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、作業療法プロセスや作業療法の実践方法を具体的に網羅した授業を行う。
作業遂行学Ⅲ（治療）	1	大学附属病院、身体障害者リハビリテーションセンター、精神病院、訪問等において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、作業療法プロセスや作業療法の実践方法を具体的に網羅した授業を行います。
身体機能作業療法治療学	1	担当教員は、急性期や回復期病院での実務経験があり、この経験をいかして実際の対象者に対して計画計画の立案から治療までのプロセスを指導する。
作業運動学	1	担当教員はいずれも医療機関において、身体機能分野の作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして本授業を行う。
作業療法学総論	1	担当教員はいずれも医療・保健・福祉などの機関において作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして授業を行う。
解剖学演習（PT・OT）①	2	病院において理学療法士として従事した経験があり、その実務経験を活かして解剖学に関する授業を行う。
解剖学演習（PT・OT）②	2	病院において理学療法士として従事した経験があり、その実務経験を活かして解剖学に関する授業を行う。
基礎解剖学演習（PT・OT）①	2	病院において理学療法士として従事した経験があり、その実務経験を活かして解剖学に関する授業を行う。
基礎解剖学演習（PT・OT）②	2	病院において理学療法士として従事した経験があり、その実務経験を活かして解剖学に関する授業を行う。
義肢装具学（OT）	2	担当者は医療施設・福祉施設等で作業療法士として勤務した経験があり、その実務経験を活かして授業を行う。
基礎作業学Ⅰ（基礎と作業分析）	2	各教員が、高齢者福祉領域、介護保険領域、身体障害領域、精神障害領域にて作業療法士として実務に従事した経験あり、その実務を活かして作業及び活動の分析と実践方法についての授業を行う。
身体機能作業療法評価学Ⅰ（検査測定演習・実習）	2	担当者は医療施設・福祉施設等で作業療法士として勤務した経験があり、その実務経験を活かして授業を行う。
臨床実習Ⅰ（見学実習前期）	1	全教員は作業療法士として臨床に従事した経験があり、また臨床実習指導者講習を受講している。それらの経験を活かして、また実習先の臨床実習指導者と連携を取りながら、指導にあたる。
臨床実習Ⅱ（見学実習後期）	2	全教員は身体障害・精神障害・老年期・発達・就労支援等の各領域でそれぞれ作業療法士として従事した経験を持つ。また臨床実習指導者講習の受講を完了しており、臨床実習における学生指導の経験を持つ。
臨床実習Ⅵ（インターンシップ実習）	3	全教員は作業療法士として臨床に従事した経験があり、また臨床実習指導者講習を受講している。それらの経験を活かして、また実習先の臨床実習指導者と連携を取りながら、指導にあたる。
臨床実習Ⅲ（評価実習前期）	6	全教員は作業療法士として臨床に従事した経験があり、また臨床実習指導者講習を受講している。それらの経験を活かして、また実習先の臨床実習指導者と連携を取りながら、指導にあたる。
臨床実習Ⅳ（評価実習後期）	5	全教員は、作業療法士として臨床に従事した経験があり、また臨床実習指導者講習を受講している。それらの経験を活かして、また実習先の臨床実習指導者と連携をとりながら、指導にあたる。
臨床実習Ⅴ（総合実習）	8	全教員は作業療法士として臨床に従事した経験があり、また臨床実習指導者講習を受講している。それらの経験を活かして、また実習先の臨床実習指導者と連携を取りながら、指導にあたる。